全修協 研究大会
被災地修旅の意義語る
福島県知事も旅行呼び掛け

全国修学旅行研究協会（全修協、岩瀬正司理事長）は7月28日、東京のホテルグランドヒル市ヶ谷で第33回「全国修学旅行研究大会」（文部科学省、観光庁、近畿日本ツーリスト協定旅館ホテル連盟、日本旅行業協会、観光経済新聞社など後援、近畿日本ツーリスト協賛）を開いた（既報）。「被災地復興への継続的支援」をテーマに、東日本大震災と原発事故で大きなダメージを受けた東北への修学旅行と、東北からの修学旅行の事例を発表。被災地や地方で修学旅行を行うことの意義や、修学旅行自体の意義が改めて示された。内堀雅雄福島県知事も、「ホープツーリズム」を進める同県への修学旅行を呼び掛けるメッセージを寄せた。

中学校の修旅事例を発表

被災地への旅行

神奈川県横浜市立浦島丘中学校は、岩手県奥州市への修学旅行の事例を紹介した。

横浜市東部の東京湾に接した一帯にある同校は、今年まで14年間にわたり奥州市での農村生活体験を中心とした修学旅行を続けている。

2011年も5月27～29日に同市での修学旅行を計画していたが、3月11日の震災発生で状況が一変。①計画通り実施②日程変更③目的地変更④中止―の四つの選択肢から検討を余儀なくされた。そして職員らが検討を進めた結果、日程を変更しつつも、同市での修学旅行を実施することを決定した。

他の学校行事との兼ね合いから、実施日を8月31日～9月2日に決定。保護者に対しての説明会では、職員による下見ビデオを上映したほか、緊急時の職員の役割分担と対応を、想定される場面ごとに詳しく説明。保護者に安心感を与えることに腐心した。余震や放射能が心配との声には、検知された放射能が国が定める基準以下であるとの客観的なデータを示して説明した。

初日に同年に世界遺産登録された平泉・中尊寺を見学。その後、奥州市の農家に移動し、農業体験と民泊を行った。被災地となった同市には日用品や食料が入った段ボール5箱分の救援物資も贈った。

都会暮らしで「普段家族と触れ合う時間が少ない」という生徒らは「最初は早く帰りたいと思ったが、2日経ったら帰りたくないと気持ちが変化した」「農家の人たちに家族のように親身になって接してもらった」と感想を語り、職員らも日程を延期しながらも、同地での修学旅行を行って本当によかったと実感したという。

現地からは修学旅行を終えた生徒らと、さらに交流したいと申し出があり、11月5～6日に旅行の思い出を語り合う交流会を実施。「奥州市との絆がより深まった。震災の時に方面を変えていたら、ここまでの付き合いにはならなかったのではないか」と、今後も同地での修学旅行を実施する予定だ。

被災地からの旅行

福島県飯舘村立飯舘中学校は、震災と原発事故が発生した2011年も東京、鎌倉など関東方面に2泊3日の修学旅行を実施した。

同村は原発事故で計画的避難地域に指定。住民全員が村から避難し、中学校は隣町（川俣町）の川俣高校を仮校舎として4月21日に授業を開始した。

震災当時、175人いた生徒が県外避難などで145人に減少。修学旅行の実施も不安視されたが、当初の4月から9月に延期して旅行が実施された。生徒らは避難生活で制限が多い日常から解放され、心癒やされる3日間になったという。保養の側面が強い修学旅行となったが「修学旅行の存在の大きさを再確認するとともに、（修学旅行が）厳しい現状からの希望の光となった」と同校。

今年の修学旅行は「キャリア教育」を目的の一つに加えた。地域は復興が進んでいるものの、基幹産業の衰退で失職者が増加。「生き方を考え、主体的に進路を選択する能力や態度を養うことが極めて重要」と考えたからだ。

旅行先の東京で班別行動による企業見学を実施。生徒らは働くことの意義や、福島と〝都会〟との職業の違いなどを学んだという。キャリア教育は今後も継続するという。

福島の現状と課題

研究大会ではこのほか、福島民報社の早川正也編集局長が福島の現状と課題をテーマに講演した。要旨は次の通り。

「震災と原発事故から5年余りが経過し、福島県内は国内外の人たちの支援を受け、未曽有の災害からの復旧と復興に向けて動き出し、『光と影が交錯した状況』（内堀福島県知事）になってきている」

「ところが時間の経過とともに全国的に福島県が話題になる機会は減り、時折クローズアップされるのは東京電力福島第1原発での汚染水漏れや各種トラブルなど『影』ばかりだ」

「福島県内のほとんどの地域の空間放射線量は事故前の水準かそれに近いレベルにまで下がり、これまでのところ放射線による健康影響は確認されていない。基準値を超える農産物は流通しておらず、観光客も戻りつつある」

「その一方、放射性廃棄物の最終処分など原発事故で明らかになった課題や問題点が棚上げされたまま、全国で原発が動き始めている。多くの県民が震災前の日常を取り戻してはいるものの、いまだに9万人余りが不自由な避難生活を強いられている」

「『光』と『影』を同時に報道することは難しい。ただ安易にどちらか一方に軸足を置いてしまっては『福島の真実』は伝えられない。2項対立的な議論に陥ることなく、県民の目線で複雑な状況を捉え、日々変わりゆく状況を発信し続けることで被災地の新聞社としての使命と責任を果たしたい」

知事がメッセージ

内堀福島県知事はビデオでメッセージを寄せ、「県の修学旅行は激減状況が続いている。県では従来の歴史学習、自然体験に加え、震災の教訓を学ぶ、福島ならではの『ホープツーリズム』に磨きをかけている。高い学習効果を持つ福島県においでいただきたい」と、集まった教育、旅行関係者らに呼び掛けた。

JNTO
訪日教育旅行受け入れ促進
海外校の対応に窓口

日本政府観光局（JNTO）は、訪日教育旅行の受け入れを促進するため、海外の学校が希望する学校間交流の相談に対応する窓口を設置している。併せて国内外の訪日教育旅行の関係者に情報を提供するウェブサイト（http://education.jnto.go.jp/index.html）を開設している。

訪日教育旅行に関しては、政府の「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2015」で、年間訪問者数を2020年までに5割増にする目標が設定された。また、政府が今年3月に決定した「明日の日本を支える観光ビジョン」では、目標の達成に向けて一元的な窓口をJNTOに設置することも盛り込まれていた。

JNTOの相談窓口には専任の担当者を配置している。海外の学校から日本国内の学校への訪問の希望があった場合、都道府県などの担当窓口を紹介し、学校間交流の設定を支援する。

訪日教育旅行のウェブサイトは、日本語、英語、中国語繁体字・簡体字、韓国語で作成。訪日教育旅行に関する情報を国内外の学校や旅行会社の関係者に提供している。

相談窓口は、JNTO海外プロモーション部の「訪日教育旅行受入促進窓口」で、日本語、英語、中国語に対応。連絡先は☎03（3216）1902。Eメールはeducation@jnto.go.jpまで。

京都 東映太秦映画村
見る・学ぶ・作る・参加する

東映太秦映画村（京都市右京区）では、修学旅行生に体験学習プログラムが人気だ。「見る・学ぶ・作る・参加する」をテーマに、京扇子、京うちわの手描き体験のほか、清水焼絵付け体験などがある。班別研修用には、少人数用のメニューとして、清水焼ろくろ体験、清水焼絵付け体験、京扇子絵付け体験、京念珠ブレスレット作りがある。いずれも1回で15人まで体験できる。旅の思い出の品になると好評だ。

映画村ならではの体験としては「お手軽時代劇扮装」がある。メイク、かつらを省いて着物の着付けのみのお手軽プラン。短時間で変身し映画村の江戸の町を散策できる。

「寺子屋おもしろ体験」は、江戸庶民の生活の知恵にスポットを当てた。

映画製作用の小道具を使い、映画村の俳優が時代劇の扮装で講師を務める。「大江戸暮らし編」と「大江戸環境編―江戸時代は循環型社会―」の2コースがある。

村内もリニューアルで新アトラクションが次々と登場している。

「レーザーミッション脱出の城」は、武将・織田信長が支配する架空の魔城から八つの罠を突破して脱出する体験型アトラクション。城の中は一本橋やスライダーなどのアスレチック、プロジェクションマッピングで演出される不思議な空間などの仕掛けがある。

「立体迷路　忍者の砦」は、高さ10㍍、3階建て240ブロックの屋内型立体迷路で日本初登場。屋内の特性を生かし迷路の中には岩落とし、つり天井など忍者の仕掛けたギミックやアスレチックが楽しめる。

「からくり忍者屋敷」は、「どんでん返し」や「隠し通路」など、たくさんのからくりを利用して忍者屋敷の出口を目指す。

「まるごとシアター」は、3Dメガネ着用で、周囲360度全周型の大スクリーンに迫力のある3D映像が映し出される。

「おもしろ迷路館」は、錯視を利用した不思議な感覚が味わえる迷路のなかに「錯覚の部屋」「鏡の迷路」「斜めの部屋」といった部屋を設けた。

「太秦トリックアート館」は、映画村らしい和をテーマにしたトリックアートが楽しめる。

「忍者修行道場」は、手裏剣や丸太橋渡り、城壁のぼりや鳴子くぐりなどさまざまな忍者の試練が体験できる。

パンフレットの郵送、申し込みなど体験学習に関する問い合わせは東映太秦映画村☎075（864）7716まで。

お手軽時代劇扮装

清水焼絵付け

脱出の城

横浜・八景島シーパラダイス
水族館を使った学習プログラム

海・島・生きもののテーマパーク「横浜・八景島シーパラダイス」（横浜市）は、水族館を使った学習プログラムを学校向けに提供している。

「うみファーム　学校貸切プラン」は、海の上に浮く施設「うみファーム」を開館前、学校単位で貸し切り利用できるプラン。

海の生き物を「育てる」「獲る」「食べる」ことを通じて、海の環境を身近に感じ考える「海育」に焦点を当てる学習環境を提供する。自然環境保全の大切さ、命の大切さを楽しく遊びながら学ぶことができるプランとして人気を集めている。

「アクアミュージアム　スタジアムレクチャー」は、ショー会場のアクアスタジアムで、イルカトレーナーらショー担当スタッフが、仕事内容や動物訓練など学校側の要望に沿ったレクチャーを実施する。会場は最大で千人の収容能力があるため、大規模校の利用にも対応できる。

さらに、水族館という生徒にとって非日常の環境に触れて学習するプログラム「アクアミュージアム　バックヤードツアー」も人気の一つ。飼育員の案内で、水族館の仕組みや飼育員の仕事場を見学する。特に動物と関わる仕事に興味を持つ生徒には貴重な学習体験として思い出になるだろう。

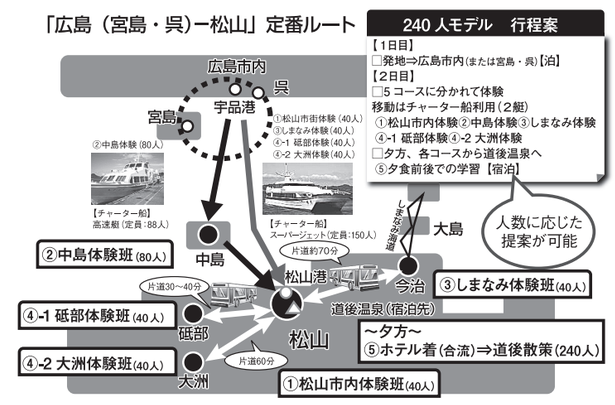
予約・問い合わせは横浜・八景島シーパラダイス営業部☎045（788）9632。

アクアミュージアム スタジアムレクチャー

うみファーム

新定番となった教育旅行先
広島・瀬戸内海・松山ルート

今、最も注目される教育旅行先が、広島・瀬戸内海・松山の組み合わせだ。「平和学習」や「世界遺産を通した学習」など教育旅行の定番の地「広島」。これに瀬戸内海クルーズや島々での体験、道後温泉、しまなみ海道、多くの俳人や文学作品を輩出した松山や、砥部焼（伝統工芸の里）、清流肱川（大洲）を舞台とした多彩なテーマ別交流体験メニューを組み合わせた教育旅行が人気で、広島・瀬戸内海・松山のルートはもはや定番ルートとなっている。松山市と広島市は共同で学校誘致を行い、連携を図るなど、行政のサポートが万全なのも、人気の理由だ。



話題が豊富な瀬戸内・松山

今年に原爆ドーム、厳島神社の世界文化遺産登録20周年を迎えた広島は、オバマ大統領の訪問でますます注目を集める。一方、松山では、今年はアーティストに山口晃を迎え「『街歩き旅ノ介　道後温泉の巻』山口晃　道後アート2016」の集客イベントで盛り上がる。17年には、夏目漱石・正岡子規生誕150年や、愛媛国体開催、計画が立てやすく、単なる移動でなく、瀬戸内海クルージングという貴重な体験メニューとなる。

チャーター船利用で効率的な移動

愛媛県外から松山市を訪れるには、海路や陸路などさまざま。松山市では、多様なモデル作りに取り組んでいる。その一例が、「広島―松山ルート」（240人モデル）。同区間には、定期便も運航されているが、チャーター船を利用して1時間ほど。スムーズに移動することで、自由度の高い1コース設定や充実した体験が可能。穏やかで晴天率の高い瀬戸内海での運航率は、ほぼ100％と計画が立てやすく、単なる移動でなく、瀬戸内海クルージングという貴重な体験メニューとなる。

注目の新ルート「徳島～松山ルート」

近年、注目されている新しいルートがある。徳島―松山―香川の2泊3日のコースだ。1日目は、延長500㍍の美しい姫ヶ浜ビーチで、投げ釣りや夕食後に道後商店街で温泉文化を体験ができ、昼食の海鮮温泉中の温泉

多彩なテーマ別交流メニュー
全国初、修学旅行生を観光大使に

松山城で俳句体験

絶景　しまなみ海道満喫体験

松山市内から車で1時間で、「しまなみ海道」愛媛側玄関の今治市に到着。ここでの定番メニューは、世界唯一の自転車で渡る「橋上サイクリング」。日本最大級の国際サイクリング大会が開催されるなど、瀬戸内海の島々を眺めながらの爽快なサイクリングは世界からも注目を集めている。

■松山・道後ゾーン
鉄壁の防御を誇る松山城を登城体験

松山市は、「いで湯と城と文学のまち」だ。「道後温泉本館」は、ミシュラングリーンガイドジャポンで最高評価の三つ星を獲得。全く加温加水していない源泉100％のかけ流しは、全国で日本初の人工哺育に成功したホッキョクグマ・ピースで有名。ここでは、飼育員から地球温暖化や森林伐採など人間が生じさせている環境問題について、身近な動物を通じて直接学ぶ。

また、六万石の城下町として栄えた大洲は、伊予の小京都、水郷のまち。およそ300年前から伝わる郷土料理「いもたき」を、河川敷で食べながら、地元の方とのふれあい交流を図る。さらに、流れ穏やかな肱川で、大洲城やミシュラングリーンガイドジャポン一つ星の臥龍山荘を眺めながら、カヌー体験を行い、自然を満喫することができる。

俳都松山

松山市内には、俳人「正岡子規」をはじめとする文人ゆかりの歴史的・文化的資源がまちなかに多く点在しており、生徒の自主性を生かした班別研修用ガイドブック「瀬戸内・松山修学はいく」が作成された。

市内中心部が一目で分かる地図、班別研修用の市内散策モデルコースや、市内電車を使い、サイコロの出た目で名所を回る企画などが掲載され、充実した内容となっており、松山市の修学旅行ホームページからダウンロードできる。

もう一つは、松山を訪れた修学旅行生を観光大使に任命する「瀬戸内・松山観光アンバサダー制度」だ。希望に応じて生徒全員を大使に任命し、修学旅行の思い出や観光名所の写真などをSNSなどで情報発信してもらう。任命期間は20年間で、その間は松山城や道後温泉などの市の施設を無料で利用できる。

これぞ和文化　「和の作法」体験

松山市は、主要観光施設がまちの中心部にコンパクトに納まっており、宿泊先として最適の道後温泉とは車で10分以内。宿泊施設の食事やおもてなしは一般旅行と同等レベルだ。

この強みを生かした、夜の体験メニューも人気だ。夕食前後の時間を利用し、会席料理やお座敷のマナー、食育など約15分で構成された研修は、時間を有効活用し、研修率もアップできると好評。また、明治の雰囲気漂う道後温泉本館を中心に、特別料金で乗車できる人力車や本館前での集合写真、また、「俳都・松山」にちなんで、散策中に俳句をつくり、特設のポストに投句すると、後日、最優秀句にみかんジュースが贈られる特別イベントも行っている。

■松山周辺ゾーン

その他のメニューとして、「とべ動物園」は、

瀬戸内・松山観光アンバサダーの記念証（イメージ）

夕食後に道後商店街で温泉文化を体験

— 協力 —
松山市産業経済部観光・国際交流課
〒790-8571　愛媛県松山市二番町4-7-2
TEL089-948-6558　FAX089-943-9001
教育旅行専用HP
おいでんか　松山　検索